



パレスチナ看護婦



1997年から今年にかけて、私たちが一番力を入れたプロジェクトは、エリトリアの孤児院の生後2歳のコンピュータ訓練校の開設でした。曲折はありましたが、昨年10月に開校し、現在はエリトリア人教師が、2年次の授業を引き受けています。紙などの消耗品は、政府が支給し運営されています。今年の春、エチオピアと国境をめぐり、紛争が起これり心配な状況が続いています。

東エルサレムのオリブ山の頂上にあるウグスタビクトリア病院があります。ドイツの皇帝によりホステルとして建てられ、第二次大戦後、LWFに寄付され、パレスチナ難民のための病院として運営されてきました。

今回、「誇りのプロジェクト」として、その病院とパレスチナの村の診療所に金子純枝さんを看護士として、来年2月から1年派遣することを計画しています。以下は、彼女が準備のために、現地を訪れた報告です。

ウグスタビクトリア病院を訪問して

金子 純枝

私は、10月1日から10日まで約1週間という短い期間でしたが、エルサレム地を訪問することができました。イスラエルは初めてで不安もともないましたが、空母ではマリアボールさんというLWFの事務所に勤めている方が迎えに来てくれました。

到着したのが週末だったために病院見学は月曜日からということになりました。旧市街は、私が想像していた以上に町が発展していて、びっくりしました。統一された石灰石の建物、道は石畳で道路のようになり、知っている人がいなければ、一人で歩くには勇気がある所です。ルーテル教会も町の真ん中あたりにあり、とても大きい教会です。学校についてくなくてはいけない年齢の子供たちが職を手伝って出店を出しているのが印象的でした。

10月5日は、病院の見学に対し、ドクターのチーフの方々に挨拶し、日本で言えば、事務局長さんにも院内を案内していただいた。1日の外来患者数は、70名から80名、病棟は内科、外科、小児科である。産婦人科がいないの不思議に思い質問すると、以前はあったが、コストが高いので閉鎖したとのことである。ICUベッド数5床から7床、透析のためのベッド数は、6床ある。心電図計や透析の機械は新しいものが取り入れられていた。

病院はアメリカ式をとっており、記録は基本的に英語もしくはアラビア語で書かれ、日本と同じように3交替で稼働は2人1組みである。ド

クターは、内科、外科、小児科各1名づつ当直があるとのこと、通常、日本で言えば看護助手の人が働いているはずであるが、この病院ではないということで看護レベルは高いのではと思う。看護大学は、エルサレムにあるが、パレスチナの人が行ける医学部がないとドクターが話されていた。医師になろうと思ったら、ロシアかアラブ語に学ぶしかないことではならぬとのこと、それぞれの国のシステムがあるので、統一がとれないことだった。

10月6日は、ピレジッククリニック（村の巡回医療）に同行することができた。エルサレムから車で約2時間、途中の町でドクター2名とナース2名が加わる。2ヶ所の診療所があり、ドクター1名と看護婦1名が初めてに降る。小学校のある小さな診療所に到着する。診療室と処置室2部屋と小さな検査室と薬剤室のみである。1日患者数の平均は30名、土ほりが多いためか、気管支炎や肺患者が多く、成人病も増えているとのことである。母親が10代で結婚し、子供を授かるので、母親への保健衛生指導が重要になってくる。子供たちの成長カルテもきちんと記録をとっていた。

隔が小学校で午後1時頃に私たちが引きあける期間と下校の時間が同じらしく、子供たちはアジア人の私が珍らしく、たくさん集まってくる。子供たちのきららひらみる目が印象に残る。

私に行けるだろうか考える前に、指、袖口に愛されている人々であることが思い、とほしいものであるが、共に生活し、交流していくことができればと思っている。

わかちあいプロジェクト募金

- ケニア、タンザニア難民救援
- カンボジア教育支援
- パレスチナ看護婦派遣、村の診療所支援
- タイ山岳民、エリトリア支援



頼いた鳥かご
アフリカ難民達が綴る詩と物語

詩集を持つ中島さん

1996年の夏、カクマ難民キャンプを訪れた私たちはそこで、一冊の詩集に出会いました。それはキャンプに暮らす難民たちの生の声を集めたものでした。その本を日本語に翻訳して出版する許可をもらい、「頼いた鳥かごアフリカ難民達が綴る詩と物語」が完成しました。

この本は「祖国」「逃避行」「キャンプ」「希望」の4章に分かれています。彼らの祖国への思い、逃げた経路、難民キャンプでの生活、そして未来への

希望が綿々と綴られています。英語の原文も併記しました。一人でも多くの方にアフリカ難民達の生の声を聞いていただけることを願っております。この本をご希望の方は、はがき、Fax、または電子メールで住所、氏名、電話番号、希望冊数をご記入の上、お申し込みください。

よろしく申し上げます。
わかちあいプロジェクト
詩集編集委員
林佐喜代
山本穂子
中島佳織

古着の寄付をまっフルンシ難民



1993年から毎年6月に行っていきます古着支援は、今年で6回目になりました。古着支援に協力してくださる方が、年々増加し、全国から段ボール箱で2、956個が集まりました。それに墨田区から寄付された乾パンも加えて、20フィートコンテナ、6台に積み込みタンザニアの難民キャンプに向けて、7月横浜を出航し、8月にグルエサラムに到着しました。コンテナ代が260万円もかかりました。皆さんのカンパと支払額との差が、まだ、かなりあります。

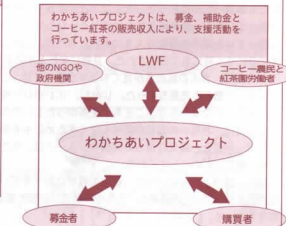
募金の目的と目標

- ケニア、タンザニア難民救援 ボランティア派遣、古着募金 300万円
- カンボジア教育支援 小学校の建築費 200万円
- パレスチナ看護婦派遣、村の診療所支援 看護婦派遣、医療機器 200万円
- タイ山岳民、エリトリア支援 コーヒーの購買促進、技術支援 100万円

募金目標額 800万円

募金の送金先

郵便振替口座
わかちあいプロジェクト募金
00130-7-762258



お知らせ

- わかちあいプロジェクト例会
8月を除く毎月3火曜日、午後7時より例会を開いています。歓迎いたします。どうぞご出席ください。
- わかちあい・オンライン！
わかちあいプロジェクトへの電子メールの宛先とホームページのお知らせです。メールで注文も可能です。電子メール：QWA03157@niftyserve.or.jp
Homepage： <http://www.big.or.jp/~wakaitai/>
- カンボジアワークキャンプ参加者募集
来年2月、学校建設のワークキャンプを計画しています。詳しくは、本文の案内をお読みください。

発行所 わかちあいプロジェクト 130-0022 東京都墨田区江東橋6-3-1 電話：03-3634-7809 FAX：03-3634-7808

編集者 松木 保 郵便振替口座： わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258 (募金用)
わかちあいプロジェクト 0180-6-758331 (代金支払用)